

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

4月28日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり約1,200トンと多い状態でした。また、北海道大学が昨日（4月30日）実施した現地調査でも、同程度の火山ガス放出量が観測されています。1日あたり約1,000トン程度の火山ガス放出量を観測したのは2023年3月以来です。

十勝岳では、62-2火口、振子沢噴気孔群及びその周辺で噴煙・噴気が多く、熱活動が活発な状態が続いています。今後の火山活動の推移には注意が必要です。

<噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続>

○活動概況（図1～3）

4月28日に実施した現地調査で、1日あたり約1,200トンの火山ガス（二酸化硫黄）の放出量を観測しました。前回の観測（3月18日、約300トン）と比較して増加しており、多い状態となっています。また、北海道大学が昨日（4月30日）実施した現地調査でも、同程度の火山ガス放出量が観測されています。1日あたり約1,000トン程度の火山ガスの放出量を観測したのは、2023年3月（1日あたり約900トン）以来です。

監視カメラによる観測では、各火口の噴煙・噴気の状態に特段の変化は認められません。

4月20日に振幅の大きな火山性地震及び振幅の小さな火山性微動が発生しましたが、その後、火山性地震は概ね少ない状態で経過し、火山性微動は観測されていません。

○活動評価

62-2火口、振子沢噴気孔群及びその周辺では、噴煙・噴気が多く、特に62-2火口ではごく微弱な発光現象が時々認められるなど熱活動が活発な状態です。また、62-2火口付近のごく浅い所を震源とする一時的な地震増加や継続時間の短い火山性微動が時々発生しています。今後の火山活動の推移には注意が必要です。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』及び『電子地形図（タイル）』を使用しています。

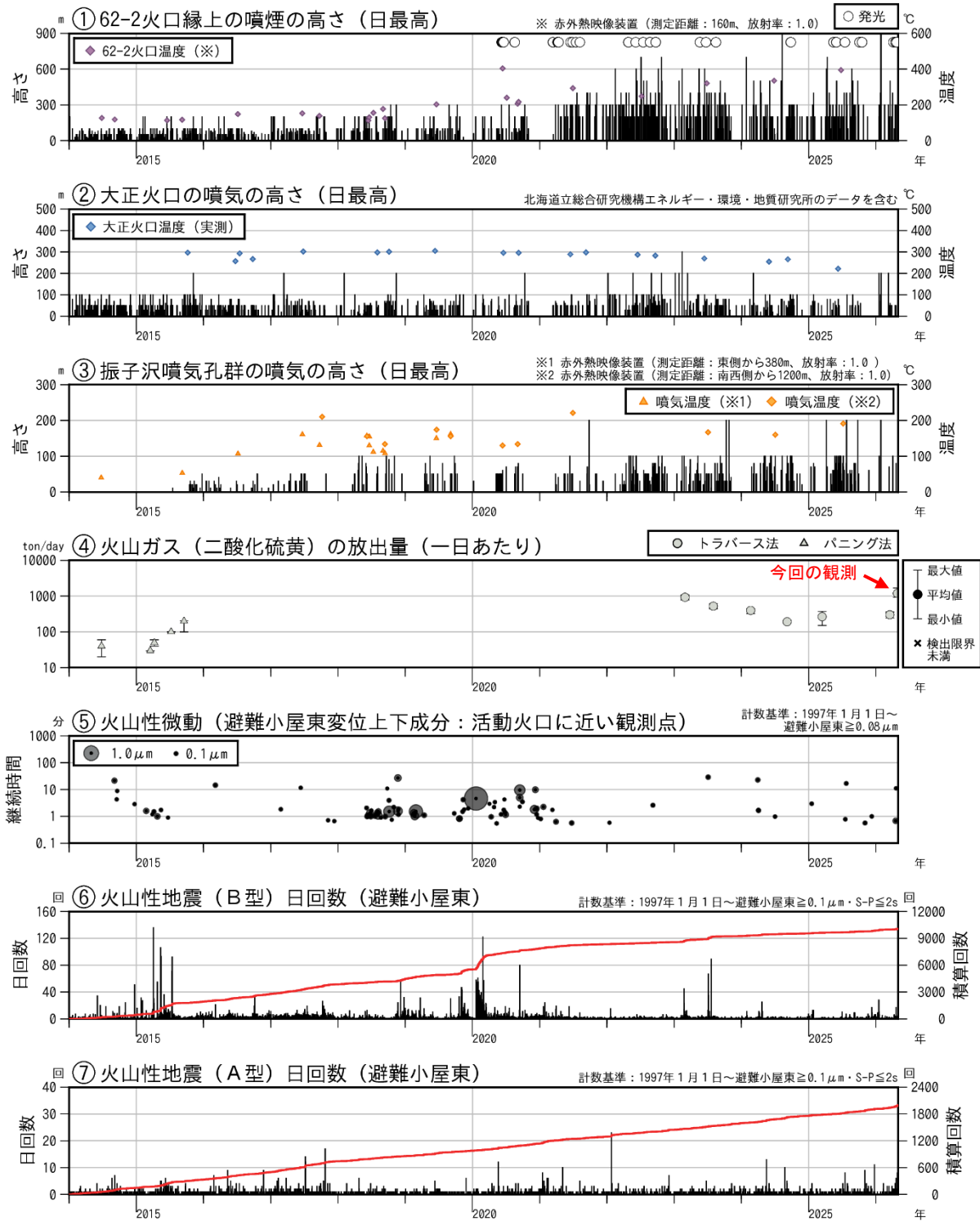


図1 十勝岳 火山活動経過図（2014年1月～2026年4月30日）

- ④は気象庁による観測結果のみを示します。
- ⑥は主に62-2火口付近のごく浅い所（図3参照）で発生したと推定されるB型地震の回数、
- ⑦は主にその周辺で発生したと推定されるA型地震の回数を示します。



図2 十勝岳 北西側から見た火口周辺の状況（白金模範牧場監視カメラによる）及び火口周辺図

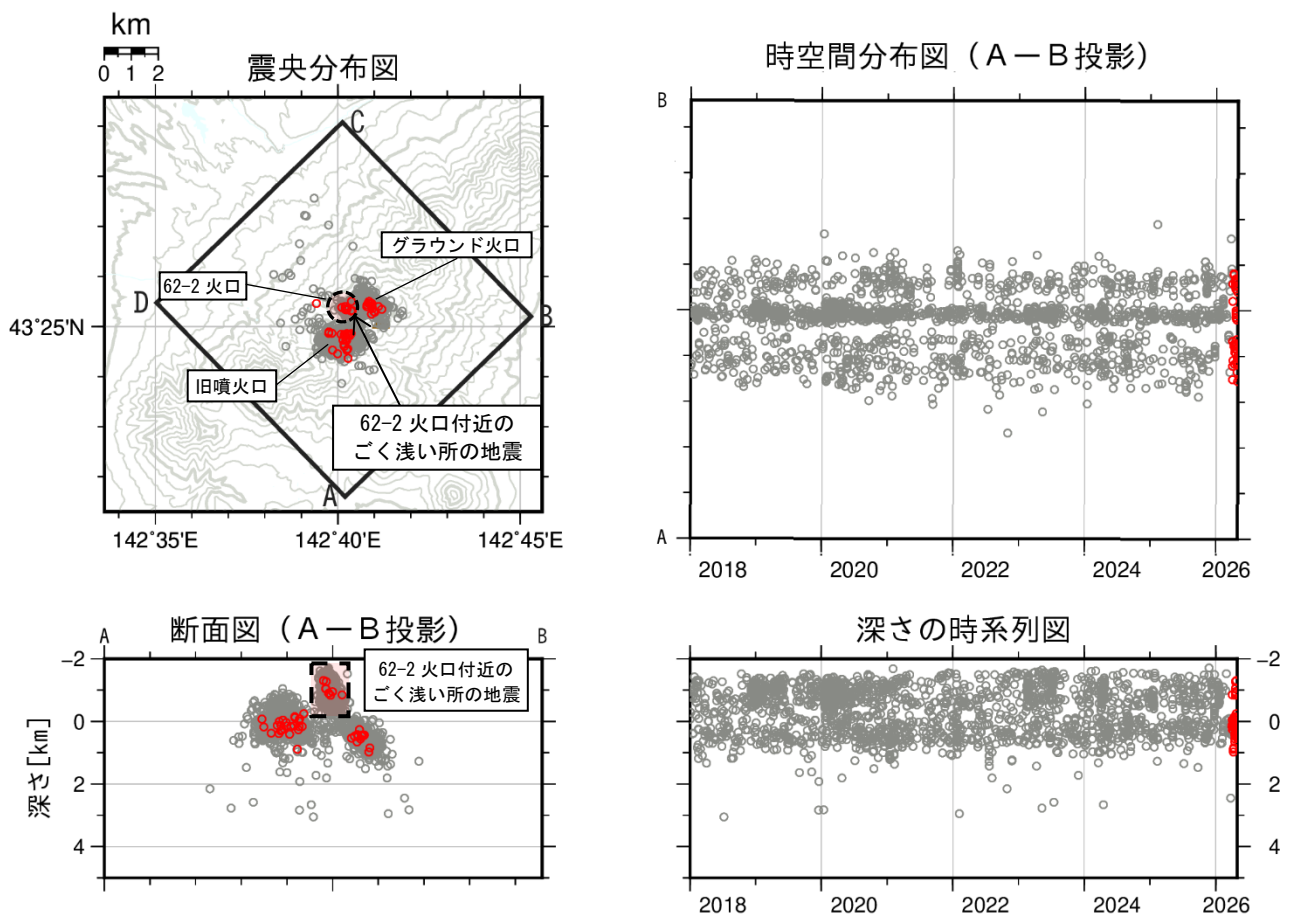


図3 十勝岳 火山性地震の震源分布（2018年1月1日～2026年4月30日）
○：2018年1月～2026年3月の震源 ○：2026年4月の震源

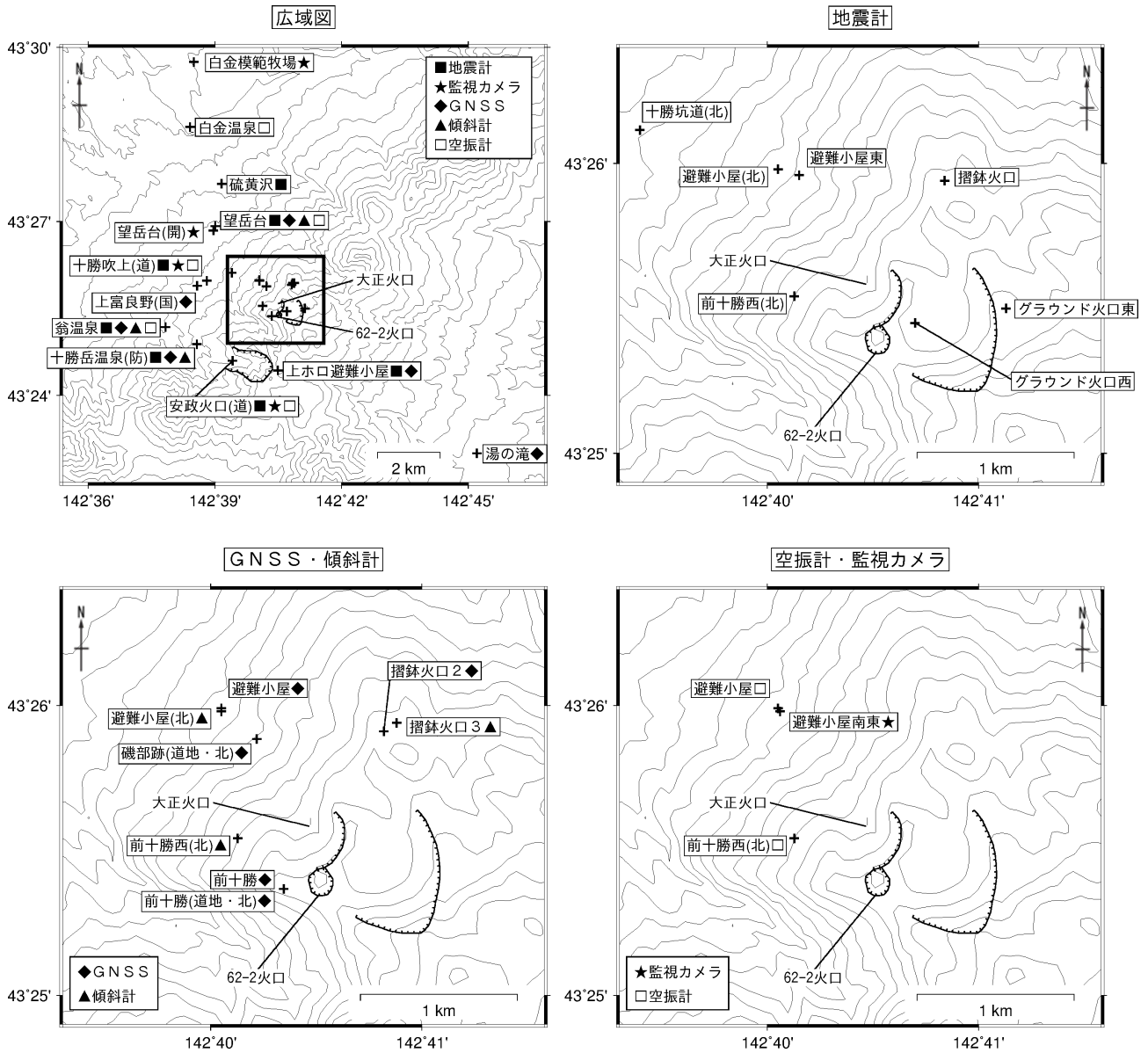


図4 十勝岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で示した領域を拡大したものです。

＋印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

- (開) : 国土交通省北海道開発局
- (国) : 国土地理院
- (北) : 北海道大学
- (防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所
- (道) : 北海道
- (道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所